

グローバル人材育成プログラム に参加して

山本 涼平

Ryohei YAMAMOTO

環境ソリューション工学科 3年

1. はじめに

私は8月22日から9月10日にかけて、アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコとサンノゼにて約3週間、グローバル人材育成プログラムに参加した。参加した理由は2つある。1つ目は、海外で働いてみたかったからである。私は昨年、ASEANグローバルプログラムに参加して、現地の企業を見学したり、現地で働いている日本人の方々から講演を聞いた。その中で、海外で働くことも選択肢の1つとしてあることを知り、実際に働いてみたいと思うようになった。そのようなときに、グローバル人材育成プログラムでは、アメリカの企業で研修を行うことができることを知って、これはまたとないチャンスだと思い参加することを決めた。2つ目は、将来、英語を話せるようになりたいと思っているからである。テキストを使って英語を勉強することは日本でもできるが、実際に英語を使う機会はあまりない。しかし、アメリカならば生活するだけでその機会はたくさんある。その中でたくさん英語に触れ、今の自分の英語力を確認して今後の英語学習に生かしていきたいと思った。

2. シリコンバレー企業見学ツアー

アメリカに到着して初日はサンフランシスコを観光し、次の日から3日間はシリコンバレーの企業を見学した。AppleやGoogle、Facebookなどの世界的に有名な企業の本社やSAPというドイツに本社を置くソフトウェア会社を見学したり、Autodesk Galleryでパソコンを使って3Dのイスを設計したりした。中でもSAPでは、日本人社員の坪田さんの講演を聞くことができた。講演の中で印象に残ったこ

とは、「今ある問題が正しいかどうか疑うべきである。」ということだ。坪田さんは、私たちが想定した問題と相手が実際に抱えている問題には、価値観の違いからずれが生じている可能性があるため、実際に見たり、話を聞いたりしてそのずれを埋める必要があるとおっしゃっていた。なので私も、今問題とされているものを鵜呑みにせずに自分で本当の問題を見つけ出し、解決できるようになりたいと思う。

3. ホームステイ

私は中国人の母とマレーシア人の父、二人の大学生の娘さんがいる家庭に2週間滞在した。家に到着するまでは仲良くできるか不安でいっぱいだったが、ホストファミリーは全員とても親切で、ホストマザーは毎日おいしい夕食を作ってくださり、ホストファーザーは積極的に話しかけてくださり、娘さんたちは、いろんな国の料理を経験させてあげたいと提案してくれて、たくさんのレストランに行くことができた。ホストファミリーとは、私がどんな所に住んでいるのか、ホストファミリーの趣味について、テレビの内容が何なのかなどいろんな話をすることができた。会話の中で印象に残ったことは、私が日本人と電話をしたときに、「もしもして何?」と聞いてきたので、私は「Hi.と同じ意味だよ。」と言うと、「面白いね、かわいい。」と大変興味を持ってくれた。「もしもし。」のような私たちには当たり前のことも、外国人にとっては日本の面白い文化として興味を持ってくれることを知ることができた。今回のホームステイ中には、私が出かけるたびにホストマザーは玄関まで見送りに来てくださった。研修先でちゃんと昼食を食べているのかと心配してくださったりとたくさん気にかけてくださった。そのおかげで私は一切ケガをせず、体調を崩すこともなく安全に2週間充実した日々を過ごすことができた。受け入れてくださったホストファミリーには感謝しかない。

4. 企業研修

4.1 研修先の概要

私は Ardenwood Historic Farm という企業で研修をさせていただいた。ここでは、ヤギやニワトリなどたくさんの動物が飼育されていて触ることもできる。また、季節ごとに様々なイベントが開催され、大人から子供まで楽しめる場所である。

4.2 研修内容

2週間の主な研修内容を以下の表に記す。

表1 主な研修内容

8月27日(月)	雑草の清掃, ヤギ小屋の清掃
8月28日(火)	小麦の選別, 雑草の清掃
8月29日(水)	小麦の選別
8月30日(木)	ゲートの柱の修理
8月31日(金)	イスや機の運搬, 窓の修理
9月4日(火)	スプリンクラーの修理
9月5日(水)~ 9月7日(金)	動物小屋の清掃, 小屋のフェンスの解体

この企業では、それぞれの作業によって担当する従業員が異なるためたくさんの従業員と関わることができたのだが、日本人の従業員が一人もいないため従業員が作業の仕方を英語で説明してくださってもなかなか理解できず大変だった。研修の前半では、何度も聞き返すのは申し訳ないと思い説明が分からなくても聞き流してしまうこともあったが、このままではここで研修してる意味がないと思い、だんだんと、聞き取れないところがあると聞き返すようになった。すると、従業員の方たちは嫌な顔など一切せず、何度も説明してくださったり、分かりや

すい英語で説明してくださった。また、私が何か言いたいときにはジェスチャーを混ぜることで、言葉だけでは伝えることが難しいことでも伝わるようになった。

また、小屋のフェンスを解体したとき、私はナットを外す作業をしたのだが、間違えて外す必要のないところを外してしまうことがあった。私は注意されると思ったのだが、従業員の方は“Nice try!”と言って褒めてくださった。私は今まで、どんなに小さくても失敗は良くないことだと思っていたので今回褒められたことには大変驚いた。

5. おわりに

今回このプログラムで、私は英語力の未熟さによる言葉の壁にぶつかり、文化の違いから戸惑うことも多々あり、正直なところしんどかった。しかし、同時に楽しかったとも思っている。それは、日本では経験できないであろう多くの困難を経験でき、学べたことによる充実感から来た楽しさだと思う。新しいことに挑戦するには勇気が必要でリスクが伴うが、その分得られる経験も大きなものとなる。私は、失敗することは決して悪いことではなく、むしろ失敗を恐れて何もしないほうが良くないことだと知ることができた。これからは何事にも積極的に挑戦していきたい。

最後に、グローバル人材とは何かについてである。私が思うグローバル人材とは、明確な目標を持ってそのために全力を尽くすことができる人だと思う。たとえ言葉が通じなくても、全力で目標を追求すれば周りの人はそれに気づき、手を貸してくれると思う。グローバル人材には、助ける価値があると他人に思わせるだけの魅力があるのだと思う。